



Sun Fire™ 6800/4810/4800/3800 システムファームウェア 5.14.0 ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No. 817-1033-10
2002 年 11 月, Revision A

コメントの宛先: docfeedback@sun.com

Copyright 2002 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、Java、OpenBoot、Sun Fire、Sun StorEdge は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Fire 6800/4810/4800/3800 Systems Firmware 5.14.0 Release Notes
Part No: 816-4853-10
Revision A



Adobe PostScript

目次

新しい機能	1
Capacity On Demand	1
新しいコマンド	2
変更されたコマンド	2
一般的な情報	3
Sun Management Center 3.0 Platform Update	4
ファームウェアの互換性	3
ファームウェアのアップグレードおよびダウングレード	4
ドメインの CPU/メモリーボードの 900/1050 MHz CPU/メモリーボードへのアップグレード	4
構成ファイルの復元	4
SC フェイルオーバー構成の縮退	5
冗長 SC における日付と時刻の同期化	5
SC フェイルオーバー後のクロック信号の確認	6
電源装置の障害	6
Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの既知の制限事項	7
.version による OBP のバージョンの表示が失敗し、PROM が重大なパニックに陥る(バグ ID 4628193)	7
SC の POST で RIO Ethernet テストに失敗すると、SC の再起動が無限に繰り返される(バグ ID 4644974)	7
ログメッセージの読み取りが困難である (バグ ID 4660866)	8

- Max scpost を指定してメイン SC を再起動すると SIGBUS 10* bus error が発生する (バグ ID 4662294) 8
- PCI #RST のあと、DR が read config space 応答を待機できない (バグ ID 4691709) 9
- 電源装置の power on/off による重大なエラー (バグ ID 4725716) 9
- ボードの power off/on による電源装置の障害 (バグ ID 4727383) 9
- probe-scsi-all コマンドの失敗 (バグ ID 4727426) 9
- 別のマシンの古いファームウェアの SC に交換したあと、SC プロンプトが変更され、同期がとれない (バグ ID 4740301) 10
- 5.13.x と 5.14.0 の SC 間の SC フェイルオーバー実行時に、警告が表示されない (バグ ID 4741244) 10
- setfailover on コマンドで、enabled and active にならない場合がある (バグ ID 4744930) 10
- RMI ロック方法でデッドロックが発生する可能性がある (バグ ID 4750736) 11
- ラックのファントレーに障害がある場合に、SC で誤った保守 LED の状態が報告される (バグ ID 4755454) 11
- 電源投入と電源切断を繰り返し行う際の電源装置の障害 (バグ ID 4756529) 11
- ネットワーク設定の変更および SC の再起動によって、スペア SC がメイン SC になる (バグ ID 4756806) 12
- ドメインでの DR 操作の実行中に SC を再起動すると、SIGBUS 10* bus error が発生する (バグ ID 4765596) 12
- keyswitch 操作を SC の再起動と平行して行うとハングアップする (バグ ID 4766276) 12
- ホットスワップ後、poweron または poweroff コマンドが正常に動作しない (バグ ID 4772250) 13
- RFE (機能拡張要求) 13
- 自動 setkeyswitch off のあとに、SC がハングアップする (RFE 4454599) 13
- システムボードが POST に失敗しても、ボードの LED 障害インジケータが点灯しない (RFE 4454623) 14
- ホスト ID および MAC でのソフトウェアライセンスの問題 (RFE 4492051) 14

1 つの I/O アセンブリの障害によって起動時に障害が発生する
(RFE 4502247) 14

ファームウェア 5.14.0 でサポートされている COD CPU/メモリーボードを認
識するには WDR の拡張機能が必要である (バグ ID 4751194) 15

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムファームウェア 5.14.0 のご使用にあたって

このマニュアルでは、Sun Fire™ 6800/4810/4800/3800 システムのファームウェアバージョン 5.14.0 に関する最新情報と新しい機能および変更された機能について説明します。

このマニュアルの内容は、次のとおりです。

- 新しい機能
- 一般的な情報
- Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの既知の制限事項
- RFE (機能拡張要求)

新しい機能

Capacity On Demand

Capacity On Demand (COD) オプションでは、必要になった時点で代金を支払って使用できる、処理リソースが提供されます。COD オプションとして、ライセンスのない CPU/メモリーボードを受け取って取り付けることができます。これらのボードは COD CPU/メモリーボードと呼ばれ、4つの CPU が含まれます。ただし、これらの COD CPU/メモリーボードに対する COD 使用権 (RTU) ライセンスを購入しない限り、CPU は使用できません。COD RTU ライセンスを購入すると、ライセンスキーが付与されます。これによって、そのライセンスキーに応じた数の COD プロセッサが使用可能になります。

Sun Fire ミッドフレームシステムでは、そのシステムで許可されている最大容量まで、有効な CPU/メモリーボードと COD CPU/メモリーボードを任意に組み合わせることができます。システムの各ドメインでは、1 つ以上の CPU が動作している必要があります。

COD を使用する場合は、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムプラットフォーム管理ガイド』(817-0501-10) の「Capacity On Demand」の章を参照してください。COD CPU/メモリーボードおよび適切な数の COD RTU ライセンスについては、ご購入先に問い合わせてください。COD CPU/メモリーボードの取り付けが完了したら、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムプラットフォーム管理ガイド』の「Capacity On Demand」の章を参照してください。また、COD RTU ライセンスの割り当ておよび COD CPU の有効化、使用中の COD CPU の監視に関するシステムコントローラ (SC) コマンドの使用については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』(817-0505-10) を参照してください。

新しいコマンド

今回のリリースでは、次のコマンドが追加されています。

- `addcodlicense` - COD RTU ライセンスキーを COD ライセンスデータベースに追加します。
- `deletecodlicense` - COD RTU ライセンスキーを COD ライセンスデータベースから削除します。
- `showcodlicense` - COD ライセンスデータベースに格納されている現在の COD RTU ライセンスを表示します。
- `showcodusage` - COD リソースの現在の使用状況に関する統計情報を表示します。
- `showerrorbuffer` - エラーバッファの内容を表示します。

変更されたコマンド

今回のリリースでは、次の SC コマンドが変更されています。

- `setupplatform` - 次の COD パラメタが追加されました。
 - 使用可能にするインスタントアクセス CPU (headroom) の数
 - 各ドメイン用に予約する COD RTU ライセンスの数
- `showboards` - 表示されるコンポーネントタイプに、COD CPU ボードが追加されました。
- `showdomain` - ドメイン用に予約されている COD RTU ライセンス数が表示されるようになりました。

- `showfailover -v` - 表示される SC フェイルオーバーの状態に **degraded** (縮退) が追加されました。メイン SC のファームウェアのバージョンがスベア SC より新しく、システム内に、メイン SC では制御できるがスベア SC では制御できないボードがある場合、SC フェイルオーバー構成は縮退とみなされます。詳細は、5 ページの「SC フェイルオーバー構成の縮退」を参照してください。
- `showplatform - setupplatform` コマンドで設定されたパラメタ値を表示します。次のパラメタが、新しく追加されました。
 - 使用可能なインスタントアクセス CPU (headroom)
 - ドメインに予約された COD RTU ライセンスの数

一般的な情報

Sun Management Center 3.0 Platform Update 4

Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 を使用する場合、SunSolve パッチ 112499 (バージョン -05 以上) が適用されていることを確認してください。このパッチを適用すると、Sun Management Center によって、不明な種類のボードが正しく処理されるようになります。

ファームウェアの互換性

5.12.x ファームウェアが搭載されたシステムボードは、5.13.0 ~ 5.14.0 ファームウェアが動作するシステムボードと互換性があります。ただし、5.11.x が動作するシステムボードとの互換性はありません。システムボードのファームウェアの互換性は、`showboards -p version -v` コマンドを実行することによって確認できます。COD のボードは、5.14.0 が動作している必要があります。

`showboards -p version -v` コマンドで表示される情報から、各ボードのファームウェアが SC で動作している ScApp のバージョンと互換性があるかどうかわかります。ファームウェアの互換性の確認方法については、今回のリリースのファームウェアに付属する `Install.info` ファイルおよび『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』の `showboards` コマンドに関する説明を参照してください。

システムの管理を簡単にするには、使用しているすべてのシステムボードのファームウェアを同じバージョンに更新し、ドメインではできるだけ速やかに新しいバージョンのファームウェアを動作させてください。ドメインのファームウェアは、

setkeyswitch off および setkeyswitch on コマンドを実行することによって動作します。システムファームウェアの更新については、各リリースのファームウェアに付属する、リリース固有の Install.info ファイルを参照してください。

ファームウェアのアップグレードおよびダウングレード

ファームウェアをアップグレードする手順については、今回のリリースのファームウェアに付属する Install.info ファイルを参照してください。Install.info ファイルには、以前のファームウェアのバージョンにダウングレードする手順についても記述されています。



注意 - 冗長 SC 構成の場合は、Install.info ファイルの記述に従って、まずスペア SC のファームウェアをアップグレードしてから、メイン SC のファームウェアをアップグレードする必要があります。

ドメインの CPU/メモリーボードの 900/1050 MHz CPU/メモリーボードへのアップグレード

ドメイン内の CPU/メモリーボードを新しい UltraSPARC III™ Cu 900/1050 MHz CPU/メモリーボードに置き換えて使用することができます。ドメインが動的再構成 (DR) ソフトウェアを使用して構成されている場合は、ドメインを停止することなくボードを交換できます。詳細は、Install.info ファイルの「Upgrading to a 900/1050MHz CPU/Memory Board」を参照してください。

構成ファイルの復元

dumpconfig コマンドを使用してシステム構成を保存し、その後ファームウェアをアップグレードする場合は、その構成ファイルが以前のファームウェアのバージョンに関連付けられていることに注意してください。restoreconfig コマンドを使用してこれらの構成ファイルを復元すると、restoreconfig の処理は失敗します。これは、構成ファイルのファームウェアのバージョンが、アップグレードされたファームウェアと互換性がないためです。

SC フェイルオーバー構成の縮退

メイン SC がスペア SC より新しいバージョンのファームウェアで動作している場合は、システム内のいくつかのボードは、メイン SC で制御できてもスペア SC では制御できません。たとえば、メイン SC で 5.14.0 が動作していて、スペア SC では 5.13.2 が動作している場合に、ユーザーが強制的にスペア SC へのフェイルオーバーを実行すると、COD CPU/メモリーボードは使用できなくなります。これは、5.14.0 より前のリリースのファームウェアでは COD CPU/メモリーボードがサポートされていないためです。

このタイプの SC 構成は、「縮退」フェイルオーバー構成とみなされます。これは、いくつかのボードがスペア SC のファームウェアのバージョンではサポートされないためです。

`showfailover -v` コマンドを実行して、SC フェイルオーバー構成の状態を表示してください。フェイルオーバーの状態が縮退の場合、`showfailover` の出力によって、スペア SC でサポートされていないボードが示されます。この場合、スペア SC をメイン SC で使用されているファームウェアと同じバージョンにアップグレードする必要があります。ファームウェアのアップグレードの詳細は、`Install.info` ファイルを参照してください。この問題は、バグ ID 4741244 に関連します。

冗長 SC における日付と時刻の同期化

フェイルオーバーのため、メイン SC およびスペア SC の日付と時刻の設定は、常に同じである必要があります。

`setdate` コマンドを使用して両方の SC の日付と時刻を設定できますが、SNTP (Simple Network Time Protocol) サーバーを使用して、両方の SC の日付と時刻の同期をとるように構成することをお勧めします。

SC で SNTP を構成すると、SC は定期的に SNTP サーバーを確認して、日付と時刻を正確な状態に保ち、さらに両方の SC で同期がとれた状態に保ちます。`setupplatform` コマンドを使用すると、SNTP サーバーを割り当てることができます。

メイン SC およびスペア SC の日付と時刻が異なる場合に SC フェイルオーバーが発生すると、実行中のドメインの時刻がずれる場合があります。

SC フェイルオーバー後のクロック信号の確認

SC フェイルオーバーが発生し、SC のホットプラグ (電源が切断された SC を取り外し、交換用 SC を挿入する) が必要な場合は、システムボードへのクロック信号が新しいメイン SC から発信されていることを確認してください。クロック信号の発信元を確認するには、`showboard -p clock` コマンドを実行します。

電源装置の障害

ファームウェアをバージョン 5.14.0 にアップグレードしたあとで、電源の切断または電源の投入によって電源装置に障害が発生する場合があります (バグ ID 4727383、4725716、4756529)。電源装置に障害が発生すると、次の現象が現れます。

- 準備ができたことを示す電源装置のオレンジ色の LED のみが点灯します。
- `showboards` コマンドの出力に、電源装置の `Status` フィールドに `Failed` (失敗) と示されるか、`Component Type` フィールドに `No Grid Power` (電源グリッドなし) と示されます。

次の回避策に従って、電源装置の障害を解決してください。回避策 1 から始めます。回避策 1 が失敗した場合には、回避策 2 を実行します。回避策 2 が失敗した場合には、回避策 3 を実行します。

- 回避策 1 – 電源装置のスイッチをオフにして、再度オンにします。ただし、`Sun Fire 6800` システムにの場合は、電源装置にスイッチがないので、回避策 2 を実行してください。
- 回避策 2 – 障害の発生した電源装置をシステムから取り外し、20 秒待ってから再度取り付けます。電源が投入されたことを示す緑色の LED 以外にも点灯している LED がある場合は、緑色の LED のみが表示された状態になるまで、この手順を繰り返します。数回試みる必要があります。
- 回避策 3 – SC を再起動します。その後、`power on` コマンドを使用して電源を投入します。

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム の既知の制限事項

.version による OBP のバージョンの表示が失敗し、PROM が重大なパニックに陥る (バグ ID 4628193)

OBP は、障害が発生したプロセッサの OBP のバージョンを判断できません。2 回目の試行にも失敗すると、重大なパニックを引き起こして、次のようなメッセージが表示されます。

```
CPU/Memory 1, port 4
FATAL: PROM_PANIC[0x7]: assertion failed: cpu->msg_pend == 0,
file:
../../../../common/src/mp.c, line: 218
ERROR: Fast Data Access MMU Miss
```

回避策: CPU ポートに障害が発生した場合、showb コマンドを使用して PROM のバージョンを確認します。

SC の POST で RIO Ethernet テストに失敗すると、SC の再起動が無限に繰り返される (バグ ID 4644974)

回避策: SC の POST 実行中に、スペースバーを押して POST メニューを表示し、オプション「0」(Return to SC RTOS)を選択します。オプション「0」を選択すると、POST が省略されます。

ログメッセージの読み取りが困難である (バグ ID 4660866)

ログメッセージ (通常は、ハードウェアエラーから生成されるメッセージ) 内の改行 (`\n`) とタブ (`\t`) の並びが `syslog` プロトコルでは正しく解釈されないため、メッセージが 1 行で表示されて読み取りが困難になります。

回避策 : ありません。

Max scpost を指定してメイン SC を再起動すると SIGBUS 10* bus error が発生する (バグ ID 4662294)

まれに、再起動中にメイン SC がハングアップして、バスエラー (SIGBUS 10* bus error) が発生します。

回避策 : 次の手順を実行します。

1. すべてのドメインを停止します。
2. スペア SC へのフェイルオーバーを強制的に実行します。
SC を 1 つのみ使用している場合は、この手順を省略します。
3. すべての DR 操作を停止するか、終了します。
4. SC に XIR を実行するか、フェイルオーバーを使用して、電源を切断してから再度電源を投入します。

PCI #RST のあと、DR が read config space 応答を待機できない (バグ ID 4691709)

DR は、追加する PCI カードの構成領域を読み取る際、カードからの応答を待つことができません。その結果、failure to recognize the io card が表示され、構成内にはカードが表示されません。この問題による構成解除操作への影響はありません。

回避策: ありません。

電源装置の power on/off による重大なエラー (バグ ID 4725716)

6 ページの「電源装置の障害」を参照してください。

ボードの power off/on による電源装置の障害 (バグ ID 4727383)

6 ページの「電源装置の障害」を参照してください。

probe-scsi-all コマンドの失敗 (バグ ID 4727426)

ドメインの OBP レベルで probe-scsi-all コマンドを実行すると、そのドメインに接続されているデバイスのパスが完全には表示されません。起動コマンドを発行してもすぐに失敗します。この問題は、Cauldron (X2222A) PCI カードを D240 に接続している Sun Fire サーバーでのみ発生します。

回避策: この問題が発生する場合は、reset または reset-all コマンドを実行するか、devaliases を使用します。

別のマシンの古いファームウェアの SC に交換したあと、SC プロンプトが変更され、同期がとれない (バグ ID 4740301)

スペア SC を交換して SC フェイルオーバーが使用可能になったあと、スペア SC に表示されるプロンプトは、マシンから取り外した SC のプロンプトになります。

回避策: `setupplatform -p network` を実行して IP アドレスおよび SC ホスト名を変更し、SC を再起動して、SC フェイルオーバーを実行します。

5.13.x と 5.14.0 の SC 間の SC フェイルオーバー実行時に、警告が表示されない (バグ ID 4741244)

メイン SC が 5.14.0 で動作していた場合に、SC フェイルオーバー操作によって、5.13.x が動作しているスペア SC をメイン SC に変更すると、新しいメイン SC を 5.14.0 にアップグレードするように、システムから管理者へメッセージが表示されません。このアップグレードを行わないと、COD CPU/メモリーボードではメイン SC が 5.14.0 で動作している必要があるため、このボードで障害が発生します。

`setfailover on` コマンドで、`enabled and active` にならない場合がある (バグ ID 4744930)

`setfailover on` コマンドで、SC フェイルオーバーの状態が `enabled and active` にならない場合があります。

回避策 1: 次の手順を実行します。

1. メイン SC で `setfailover off` コマンドを実行して、スペア SC の SC フェイルオーバーを使用不可にします。
2. メイン SC で `setfailover on` コマンドを実行します。

メイン SC とスペア SC の両方の SC フェイルオーバーの状態が `enabled and active` と表示されます。そのように表示されない場合は、回避策 2 を実行してください。

回避策 2: 回避策 1 の手順を実行しても問題が解決されない場合に限り、次の手順を実行します。ただし、これらの手順は、`setkeyswitch on` コマンドの実行中またはドメインの再起動中、DR 操作の処理中、フラッシュ更新処理中には実行しないでください。

1. `reboot` コマンドを使用して、メイン SC を再起動し、次にスペア SC を再起動します。
2. メイン SC で `setfailover on` コマンドを実行します。
SC フェイルオーバーの状態が `enabled and active` になります。

RMI ロック方法でデッドロックが発生する可能性がある (バグ ID 4750736)

SC フェイルオーバー操作のあとで `showsc -v` を実行すると、まれにハングアップが発生します。

回避策: ハングアップした SC がメイン SC の場合、動作中のドメインをすべて停止してからリセットボタンを押します。

ラックのファントレーに障害がある場合に、SC で誤った保守 LED の状態が報告される (バグ ID 4755454)

ファントレーで障害が発生した場合、該当する保守 LED が点灯しますが、`showp` コマンドによる SC の表示はオフになります。

回避策: ありません。

電源投入と電源切断を繰り返し行う際の電源装置の障害 (バグ ID 4756529)

6 ページの「電源装置の障害」を参照してください。

ネットワーク設定の変更および SC の再起動によって、スペア SC がメイン SC になる (バグ ID 4756806)

ネットワークの設定を、ドメイン名システム (DNS) 構成でない Static から DNS 構成の Static (またはその逆) に変更し、メイン SC とスペア SC を同時に再起動すると、メイン SC がスペア SC になり、スペア SC がメイン SC になる場合があります。

回避策: この問題が発生する場合は、`setfailover -y on` および `setfailover -y force` コマンドを実行して、SC フェイルオーバーを手動で実行します。

ドメインでの DR 操作の実行中に SC を再起動すると、SIGBUS 10* bus error が発生する (バグ ID 4765596)

ドメインでの DR 操作の実行中に POST がオフに指定された SC を再起動すると、再起動処理が失敗し、エラー (SIGBUS 10* bus error) が生成されます。

回避策: ありません。

keyswitch 操作を SC の再起動と平行して行うと ハングアップする (バグ ID 4766276)

`keyswitch on` を実行する場合、このコマンドの処理が終了する前に SC を再起動すると、操作がハングアップします。

回避策: 「Control-x」を使用して、ドメインを再起動します。

ホットスワップ後、poweron または poweroff コマンドが正常に動作しない (バグ ID 4772250)

電源装置のホットプラグを行ったあとで、SC がその電源装置を監視および制御できなくなり、次のようなエラーメッセージが表示される場合があります。

```
Oct 31 13:58:57 gamd10-sc0 Platform.SC: ERROR:
PlatformManager caught exception
...
```

この状況が発生した場合は、続けて poweroff コマンドを実行すると、電源装置の電源を正常に切断できます。しかし、SC からは poweroff コマンドの失敗が通知され、showboard コマンドでは電源装置の電源が投入されていると誤って表示されます。

回避策: 前述のメッセージが表示された場合、あるいは poweron または poweroff コマンドが正常に動作しない場合はすぐに、SC を再起動します。

RFE (機能拡張要求)

自動 setkeyswitch off のあとに、SC がハン グアップする (RFE 4454599)

SC の手動リセットは、機能しません。

回避策: 次の手順を行います。

1. ネットワーク接続 (telnet、rlogin など) を介して、動作中の各ドメインに接続します。
2. 可能な場合は、各ドメインを停止します。
3. Sun Fire システムの電源を切断し、再度電源を投入します。

システムボードが POST に失敗しても、ボードの LED 障害インジケータが点灯しない (RFE 4454623)

回避策: プラットフォームシェルから `showlogs` または `showboards` コマンドを実行して、障害が発生したシステムボードのエラーおよびテスト状態を表示します。

ホスト ID および MAC でのソフトウェアライセンスの問題 (RFE 4492051)

ホスト ID および MAC アドレスの現在の割り当て方法は、使用中の物理ドメイン (A、B など) に基づくため、ホストライセンスを持つソフトウェアは実行できません。ハードウェア障害によってドメインの変更が必要な場合、ホストライセンスを持つソフトウェアは起動できません。

回避策: システムハードウェアを再構成すると、必要なドメインをサポートできるようになる場合があります。ご購入先にお問い合わせください。

1 つの I/O アセンブリの障害によって起動時に障害が発生する (RFE 4502247)

I/O アセンブリは単独でテストできません。I/O POST を実行したときに、I/O アセンブリの障害によってドメインのハードウェアが一時停止され、起動処理全体が停止されます。これによって、I/O アセンブリの障害を認識することができます。

回避策: `deleteboard` コマンドを実行して、ドメインから障害の発生した I/O アセンブリの割り当てを解除します。`setkeyswitch on` コマンドを実行してキースイッチをオンに設定して、障害の発生したボードを使用せずに再起動します。`deleteboard` コマンドの正しい使用方法については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

ファームウェア 5.14.0 でサポートされている COD CPU/メモリーボードを認識するには WDR の拡張機能が必要である (バグ ID 4751194)

WBEM ベースの動的再構成 (WDR) 操作では、COD CPU/メモリーボードが認識されないため、WDR 操作は失敗し、エラーメッセージが生成されます。

回避策 : ありません。

